



発達相談の実態と課題について

小手川恵美 野口真智子(中央保健所)
勝吉恵美子 武田恒子(都城保健所)
久木山理恵 田中美幸(延岡保健所)
永野秀子(健康増進課)



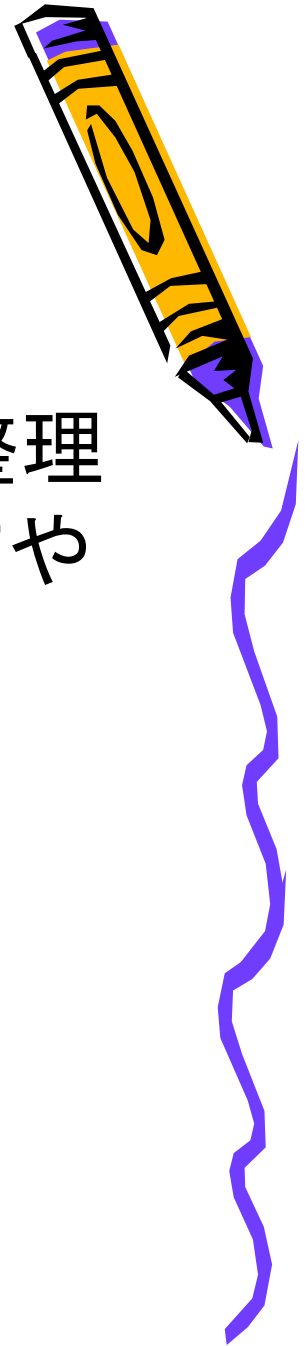
はじめに

- 発達相談は、心身に障がいの疑いのある児や発育・発達に遅れが見られる児が、適切な保育や療育を受け、安心して生活ができることをねらいとしている。
- 県の事業として平成8年度より11年間取り組み、平成18年度で終了した。
- 平成19年度からは、各市町村主体の取り組みとなる。



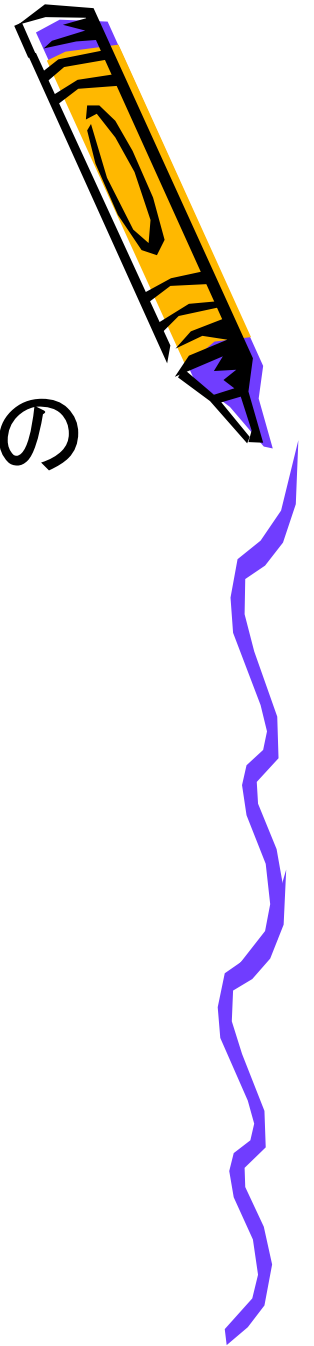
研究目的

保健所の発達相談の果たした役割を整理し、今後の市町村の発達相談のあり方や課題を明確にする。



調査対象者

- 平成15年度から平成17年度までの
発達相談の初回相談者175名。
 - 中央保健所 64名
 - 都城保健所 56名
 - 延岡保健所 55名
- 発達相談記録から分析を実施。



結果

表1

年度別状況（人）

	中央	都城	延岡	計
H15	27	26	24	77
H16	29	13	20	62
H17	8	17	11	36
計	64	56	55	175

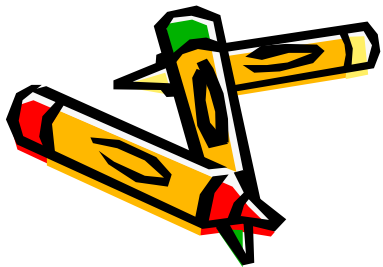
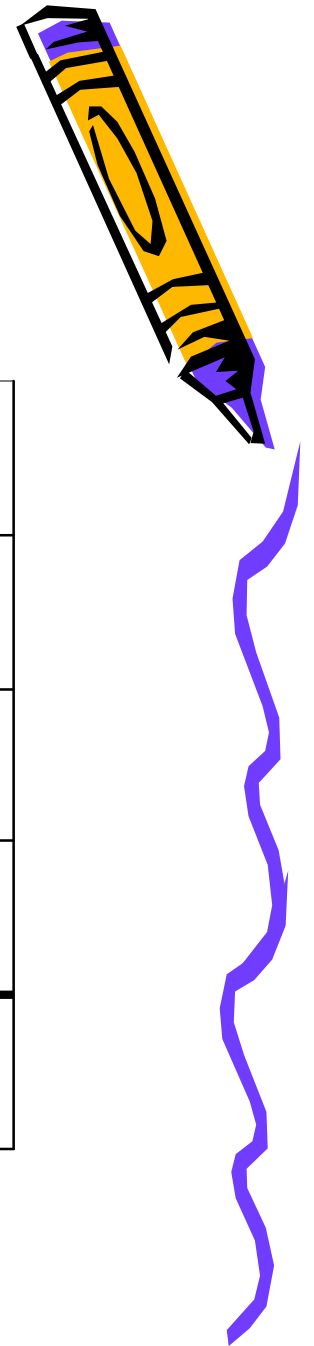


表2

年齢別状況（人）

	中央	都城	延岡	計
～0:11	2	0	36	38
1:0～2:11	26	36	8	70
3:0～4:6	20	16	6	42
4:7～就学前	16	4	5	25
計	64	40	55	175

表3 相談ルート別状況（人）

相談ルート	中央	都城	延岡	計
未熟児養育医療	0	1	24	35
乳児健診	2	0	0	2
1. 6歳児健診	12	23	0	35
3歳児健診	14	13	0	27
家庭訪問	1	0	1	2
関係機関紹介	13	14	13	40
保護者相談	19	5	7	31
その他・不明	3	0	0	3
計	64	56	55	175

表4 相談結果状況（延人数）

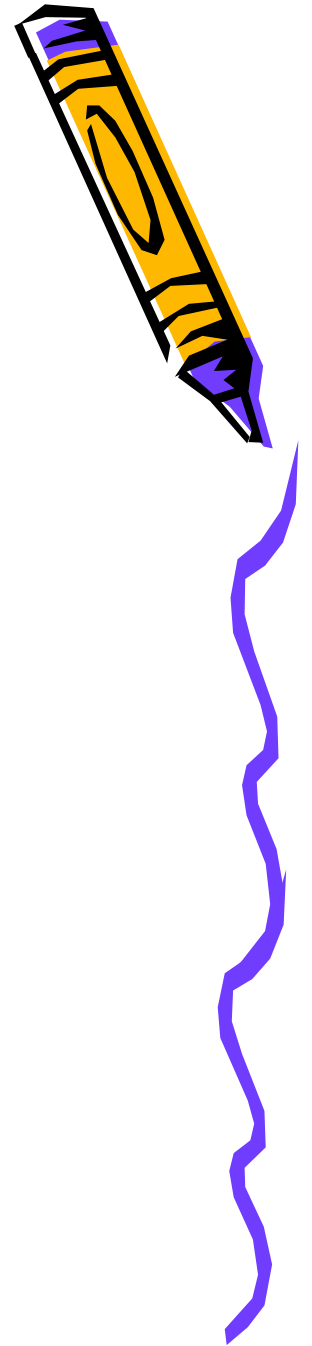
結果	中央	都城	延岡	計
発達には問題なし	20	0	9	29
言語面に問題あり	11	7	3	21
発達の遅れあり	6	12	9	27
発達障害の疑い	13	24	1	38
運動面に問題あり	0	3	2	5
身体発育上の問題	6	10	2	18
母親支援必要	17	15	16	48
要観察	24	22	30	76
養育環境に問題あり	1	4	0	5
その他	3	0	1	4
計	101	97	73	271

表5 支援方針内容状況（延人数）

方針	中央	都城	延岡	計
終了	12	1	8	21
発達相談継続	32	15	29	76
遊びの教室継続	23	31	1	55
家庭訪問・電話にてフォロー	0	1	19	20
子ども療育センター紹介	0	2	3	5
児童相談所紹介	2	3	0	5
宮崎市総合発達支援センター	12	7	0	19
その他の機関紹介	6	20	2	28
計	87	80	62	229

発達相談の果たす役割

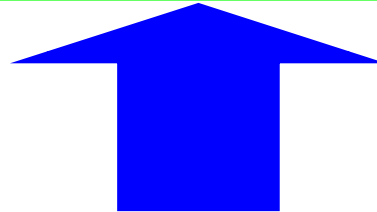
- ◆二次スクリーニング
- ◆診断機関や療育機関へ紹介
- ◆経過観察や育児支援の場



今後、発達相談を取り組むにあたって

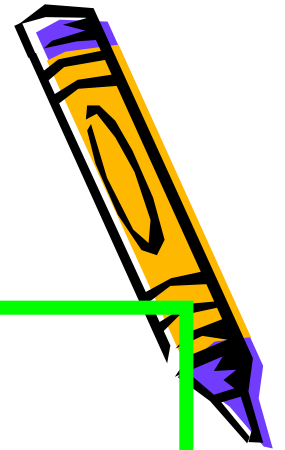
市町村として

- ・スクリーニング機能の充実
- ・経過観察や育児支援



県・保健所として

- ・地域の診断機関や療育機関の偏りの是正
- ・専門医等の巡回



幅広い年齢への 支援体制づくり

- 「関係機関からの紹介」「保護者からの相談」は3歳児健診後に多い。

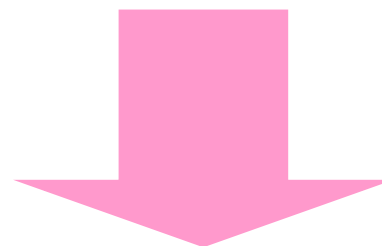
⇒ **5歳児健診**

- 保育所、幼稚園等の関係機関の連携の強化
- 関係者向けの発達障害についての研修

等

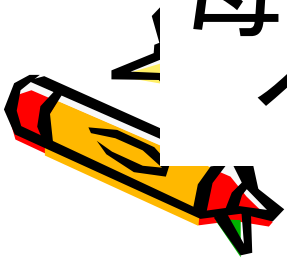


- ◆保健師、心理相談員等の支援
- ◆母親同士の交流



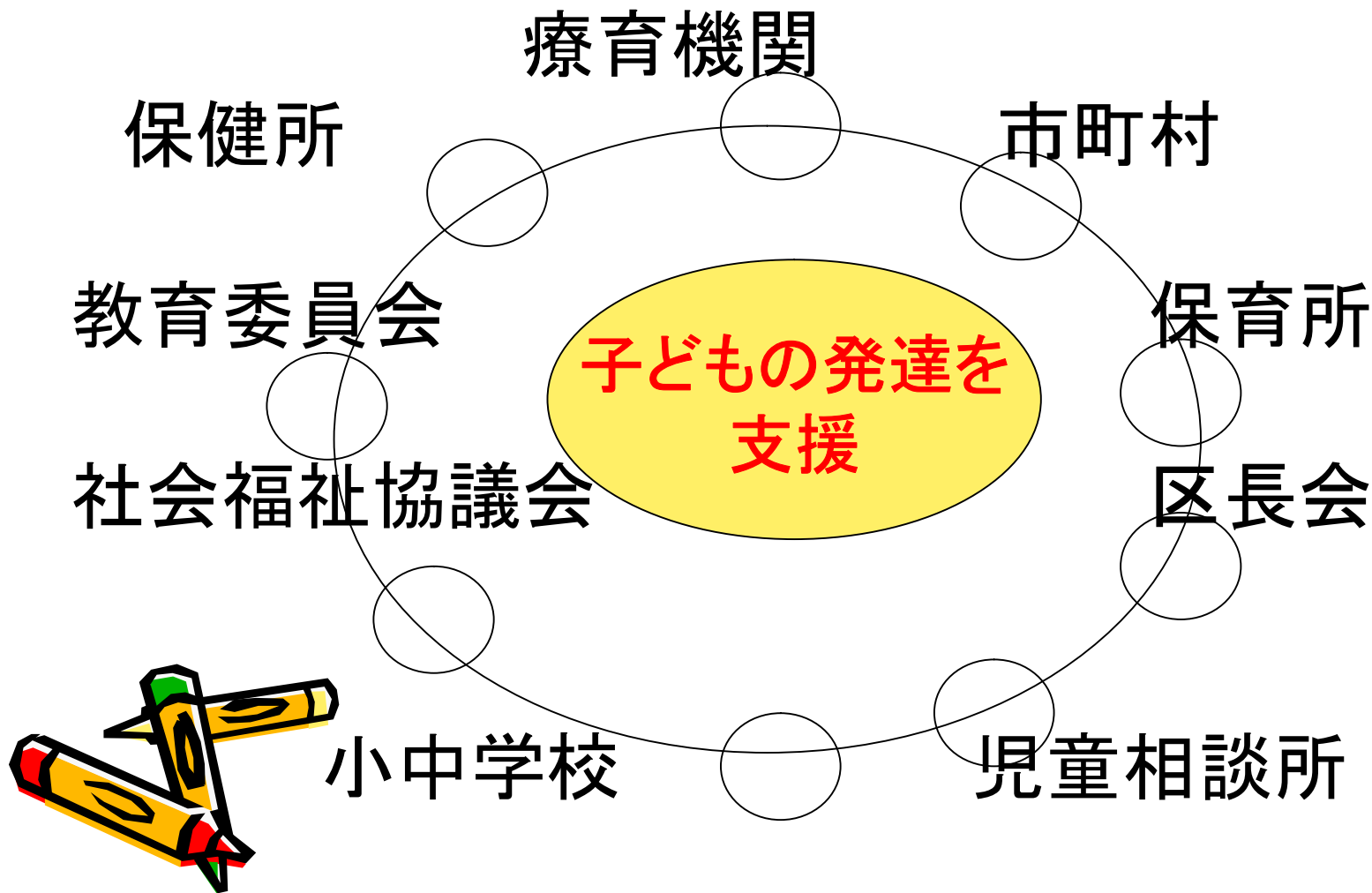
- ・母親の不安軽減、気持ちの変化
- ・児の行動の変化

母親支援のあり方について関係者への研修も大切



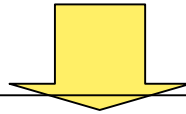
関係機関とのネットワークの強化

保健所管内ごとに療育支援ネットワークをつくる

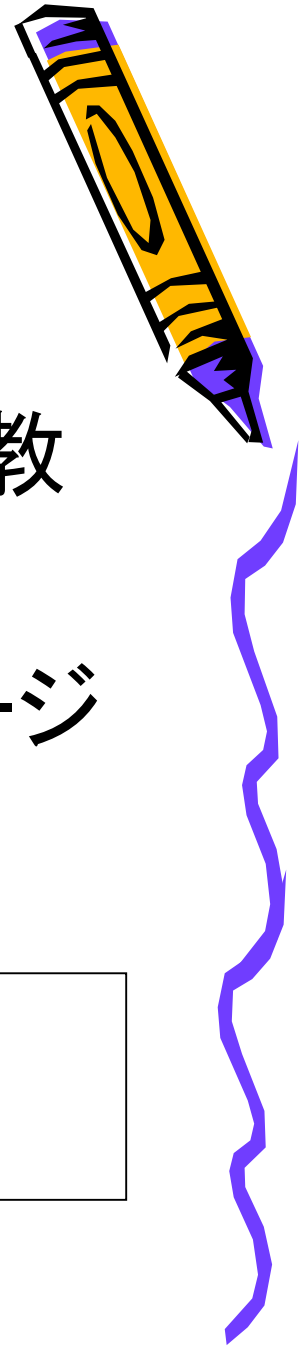
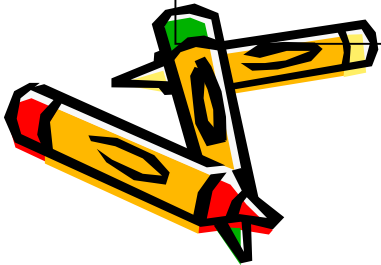


総合的・一体的支援体制

- ・教育委員会の「みやざき特別支援教育プラン」
- ・障害福祉課の「障害児ライフステージ支援モデル事業」



教育・福祉・医療・保健の連携強化



おわりに

今後、市町村の発達相談がより効果的に実施していけるよう支援していきたい。

